

色 建 第 4 2 5 号

平成20年10月7日

国土交通省道路局長 殿

宮城県加美郡色麻町四竈字北谷地41
色麻町長 伊 藤 拓 哉



今後の道路行政についての意見・提案について

(回答)

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼ありましたこのことについて、
別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮 城 県 色 麻 町

- 1) 地方の道路整備に支障を来さぬよう、必要な道路整備は十分な予算措置のもと確実に実行する。
- 2) 道路特定財源制の目的から逸脱した支出・無駄な支出の根絶を図り、地方の道路財源に充てる。
- 3) 官庁施設においては、膨大なストックの蓄積の一方で、ストックの老朽化が進行しており、修繕・改修等に要するコストが増加傾向にあり、これら対象の拡大や交付率の引き上げを行う等、地方の財政負担の軽減を図る。
- 4) 地震・豪雨・豪雪・急傾斜地崩壊等の災害に対する防災対策を着実に推進する。
- 5) 少子・高齢社会に対応したバリアフリー化対策を着実に推進し、地域の特色や事情に即した道路整備を図る。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

宮 城 県 色 麻 町

○現状

- 1) 町管理の道路・橋梁の老朽化が進んでいる。
- 2) 国道４５７号線の歩道が狭いため交通渋滞になりやすく、通勤・通学・通院に不便をきたしている。

○課題

- 1) 改修・補修箇所が数多く、町単独事業として早急に実行できないため、国の助成を望む。
- 2) 降雪時には歩道に雪が積もり通行が困難になるため、毎年、要望をしているものの実現されない。
(宿・向町・一ノ関地区)

②－２ 地域の目指すべき将来像

少子高齢化の進展や雇用環境の変化による能力主義や効率主義が強く主張されるようになり、昔から続く地域のつながりが大きく揺らいでおります。

また、地方分権の進展に伴い、自分の地域のことは自分で決めるという自治意識の高揚が必要となってきます。これら地域の意識も時代に応じて変化していくと予想されますが、地域住民がともに協力し合い、地域の問題を自主的に解決していく地域活動を大切にし、より住みやすい環境づくりを目指すことが重要であります。

このため、豊かな自然や景観に最大限配慮した土地利用計画に基づき、農業の振興と工場誘致を進め、地域の活力を高め将来世代に良好な環境を引き継いで行くよう配慮する必要がある。

①地域の生活・交通システムの改善

②産業競争力を強化するため、交通ネットワークの整備を図り、物流のスピード向上、コストの低減、安全性・信頼性の確保

③身近な自然と共生した美しい地域づくりを目指すため、観光振興や交流拠点の交通基盤の整備

④地震・土砂災害等の自然災害に備えるための防災対策

⑤高齢者・身障者をはじめ、すべての人々にとって快適に暮らしやすい地域づくりを進めるため、高度医療施設までの所要時間を短縮する交通基盤（車歩道）の整備

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

宮 城 県 色 麻 町

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
1) 地域活力の向上	国道457号線における車歩道の整備	住民の安全・安心を確保し、ゆとりある生活が営める。	
2) 競争力の強化のための交通整備	高速道路（大和IC・古川IC）までのアクセス道路の整備	物流のスピード向上、コストの低減、安全性・信頼性の確保が図られ、産業競争力の強化が望まれる。	
3) 地震・土砂災害等の自然災害に対応する整備	老朽化する道路・橋梁施設の更新・維持・管理に向けた整備	住民の安全・安心を確保し、ゆとりある生活が営める。	
4) 少子・高齢社会に対応した整備	国道457号線における歩行空間のバリアフリー化、交通安全対策、雪寒対策等車歩道の整備	快適に暮らしやすい地域づくりができるとともに、高度医療施設までの所要時間を短縮できる。	
5) 良好な生活空間・自然環境の整備	観光振興や交流拠点の交通基盤の整備	身近な自然と共生した美しい地域づくりで、都市との交流が図られる。	